



「家族カプセル」を描いて講演する高濱正伸さん。会場は子どもを抱える母親たちでほぼ埋め尽くされる＝東京都葛飾区で

いじめや不登校、家庭内暴力など、子どもたちが抱える問題に取り組んできた、さいたま市南区の学習塾「花まる学習会」代表高濱正伸さん(47)。「幼児期の親子関係が大事。子育てを見直してほしい」と講演を始めて15年になる。多い時は月10回以上、県内をはじめ、長野や福井などにも足を延ばしている。(天野みすず)

いじめ・不登校…講演15年

「子育てを見直そう」
家族カプセルで説明

さいたまの学習塾代表・高濱さん

「家族」を表す大きな円に「母」と「子」を表す小さな円。米粒のように小さな点を書いて「お父さんはこれぐらいの存在です」。「家族カプセル」をホワイトボードに描くと、会場からどっと笑いがおこる。

地域から隔絶されたカプセルは、母親1人が子育てを抱え込んでしまっている、問題が多い家族なのだという。参加者は「持ちネタ」をちりばめた話にうなずいたり、メモをとったりして、引き込まれていく。「頼れるよき相談者をもってほしい」とアドバイスし、自らも講演後に相談にのる。

熊本県出身。県立熊本高校を卒業後、東京大学に入学し、大学院に進学した。93年に同期らと学習塾を設立。県内の医師やカウンセラーらと、問題を抱える子どもたちの面倒をみてきた。その豊富な事例から、対処法を話す。

いじめは実体験でもある。小学5年の時、「頭が大きい」と毎日、同級生にはやし立てられた。学校に行くのが嫌になった。初めて自殺も考えた。でも、母が言った。「あんたが元気ならよかよ」の一言で、「すーっと」楽になった。

いじめられていることに、あえて触れずにくれたのが嬉しかった。その後、頭が大きいことを笑いに変えるなど、いじめられなくなつた。

いつも言う言葉がある。「もめごとは、こやし」。自分で困難を乗り越えようと精神的に強くなると訴える。母親たちには、子どもに何か特技を身につけさせてあげることと、「この家にいる間は大丈夫なんだな」と思える普段通りの家庭環境をつくるのが大事だと話す。

「世界は力で動いている。だから、いじめはなくなりっこない。いじめ

は必ずふりかかってくるから、払いのけなければならぬんです」